

青少年育成センターだより

第84号 2020. 2. 15

防府市教育委員会生涯学習課

青少年育成センター

0835-23-3013



「冬ながら 空より花の 散りくるは 雲のあなたは 春にあらむ」
（まだ、冬でありながら、空から花が散ってくるのは、雲の向こう
は、もう春なのでしょうが 清原深養父）

毎日、受験勉強を頑張っている子どもたち、ラストスパートです。
最後まで諦めずに頑張ろう。春はあと少しで訪れます。君の後ろに
は、応援している人がたくさんいる。FIGHT!!



一日一善

大分県といえば、別府温泉、湯布院温泉、鉄輪温泉等、全国的にも著名な温泉があります。これを読んでおられる皆さんの中にも、これらのお湯につかれた方もいらっしゃるでしょう。

その大分県に、日田市という市があることをご存知の方も多いでしょう。焼きそば（日田焼きそば）の美味しい街としても有名ですよね。私は、これまでも何度か訪れました。落ち着いた雰囲気の日田市は私にとって好きな街の一つです。

その日田市に、かつて「咸宜園（かんぎえん）」という私塾がありました。江戸時代に活躍した広瀬淡窓という儒学者が興したもので、全国各地から門下生が集い、明治30年の閉塾までに約5千人が学んだと言われています（私たちの山口県（長州藩）出身の大村益次郎も広瀬淡窓の感化を受けています）。

広瀬淡窓は、儒学者であると同時にすばらしい人格者でした。門人たちに対し、「人としての正しい生き方」を自分の後ろ姿で示していた人です。その淡窓が、取り組んだこととして有名なのが「万善簿」と名づけられた善行実践の記録です。

「万善簿」とは、一日を振り返って、善いことをしていればその分だけの白丸をつけ、悪いことをしていればその分だけの黒丸を帳面につけるといふものです。そして月末には、白丸の数から黒丸の数を差し引いたものを純粋な善行の数として集計し、その累計が一万に達することをめざしました。白丸の例としてみられる実践項目は、「人に勧めて善を為す」「財を捨てて人を利す」「善書を著す」「怒りを忍ぶ」「放生（捕らえた生き物を放してやること）」などです。また、黒丸の例としては、「殺生」「食べすぎ」「財を惜しむ」などです。淡窓は「万善簿」を54歳からつけ始め、12年7か月をかけて、67歳でついに一万善を達成したといわれています。すごいですね。

どうですか、皆さんも淡窓のように善の実践を始めてみませんか。白丸の基準は、淡窓のような高いものではなくてもいいのです。「近所の人に挨拶をした」「落ちていたゴミを拾った」「困っている人に声をかけた」「バスで席を譲った」等、何でもいいのです。

みなさんもご存知でしょう、「一日一善」という言葉があります。「一日に一つ善いことをしよう」というものですが、みなさんも一日に一つの善い行いをしましょう。国民が一人、一つ善いことをすれば、国中で約1億の善いことが行えたことになります。そのことにより笑顔があふれ、今よりもずっと明るい日本になること請け合いです。

親子で「一日一善」の実践について話し合いをしてみられませんか。

（文責＝青少年育成センター指導員 藤村）